

# Aiyugo

## アイユーゴー通信 第 38 号

〒590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1-22-10

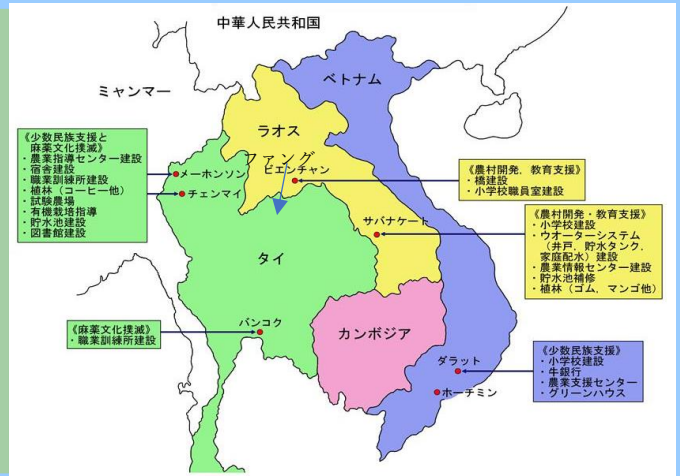
Tel: 072-452-5680

E-mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp

Homepage: <http://aiyugo.org/>

### 日・越合同セミナー(ジョイント・セミナー)

2024 年 8 月に実施したジョイント・セミナーについてプログラムの詳細を報告するとともに、アイユーゴーが長年続けてきたジョイント・セミナーの意義と課題を考えます。



### ジョイント・セミナーの実施について(意義と課題)

理事 各務宇春

アイユーゴーは、主な活動のひとつとして、ジョイント・セミナー(合同セミナー)の実施に力を入れてきた。このセミナーは、アイユーゴーの日本国内拠点の役員に加えて、アイユーゴーの海外拠点の役員らが中心となり企画・運営を行うもので、各国において支援事業に関わる関係者、日本及び各国の大学生に参加を呼びかけて実施している。2006 年から 2017 年にかけては、ベトナムで 3 回、タイ、ラオス、日本で各 1 回と合計 6 回実施、その後コロナ禍による中断を経て、2022 年にタイでのセミナーを再開し、2023 年にベトナムで実施、今回、第 9 回となるジョイント・セミナーを 2024 年 8 月 16 日～21 日にベトナムで実施した。今回のセミナーについて報告とするとともに、アイユーゴーが主催するジョイント・セミナーの意義と課題について検討したい。

### 1. 2024 年ジョイント・セミナーの概要

以下の概要で開催した。(○数字は主なプログラム、(3) に詳細記載)

#### (1) 日程

- 7 月 28 日 事前研修(日本からの参加者のみ)
- 8 月 16 日 ホーチミンシティ到着、オリエンテーション
- 8 月 17 日 ラムドン省(Lam Dong Province) ラムハ県(Lam Ha District)へ移動
  - ①タンヴァン村(Tan Van Commune) 行政関係者との懇談、アイユーゴー事業の進捗視察  
同県内ダラット市(Da Lat City)へ移動
- 8 月 18 日 ダラット大学(Da Lat University) 訪問
  - ②ダラット大学代表表敬訪問
  - ③ダラット大学および社会福祉学部教員(Faculty of Sociology & Social Work)と日本からの参加者による懇談
  - ④ダラット大学生らによるキャンパスツアーと昼食懇談
  - ⑤ダラット大教員・学生および日本からの参加者によるプレゼンテーション
  - ⑥ダラット大学教員および学生による夕食会
- 8 月 19 日 ダラット市内

## ⑦SOS 子どもの村（SOS Children's Village Dalat）訪問

ホーチミンシティへ移動

8 月 20 日 ホーチミンシティ市内見学

8 月 21 日 ホーチミンシティ出発



## (2) 参加者

日本からの参加者：

新田代表、各務、大学生 3 名

ベトナムからの参加者：

ホーチミン市科学大学 国際部職員 1 名

ダラット大学社会福祉学部教員 6 名

ダラット大学社会福祉学部学生 8 名

ホーチミンシティ在住高校生 1 名

## (3) プログラム詳細

## ① タンヴァン村(Tan Van Commune)人民委員会関係者との懇談、アイユーゴー事業の進捗視察

ダラットの西、車で 1 時間半ほどに位置する村で、人口は約 13,000 人。アイユーゴーはこの村との関係を長く築いており、2024 年度も事業のひとつとして、村内のタンロイ（Tan Loi）地区の中心部に、地域の子供たちが集うことのできるミニ図書館を建設している。これは、ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の支援を受けて、アイユーゴーと人民委員会が協力して建設にあたったもので、今年 9 月に完成の予定である。

日本からの参加者に対し人民委員会関係者から、タンヴァン村全体の概要（人口、産業、社会課題）などの説明および歓迎を受けた後、タンロイ地区に移動し、ミニ図書館の建設状況を確認した。本来は今回のセミナー実施までの竣工を予定していたが、雨天が続く建設作業が遅れ、9 月竣工にずれ込んでいる。地区の住民代表からの状況説明と謝意、また夕食を取りながらの交流を行った。日本からの参加者は、アイユーゴーの事業概要、村の関係者の熱意や歓迎を肌で感じることができた。

## ② ダラット大学代表表敬訪問

1958 年（国立大学としての設立は南北統一後の 1976 年）に設立された大学で、ベトナム中部高原地域の中核的な総合大学である。今回、ダラット大学の教員および学生とジョイント・セミナーを実施するにあたって、学長代理として、Ngoc 国際担当役員が大学を代表して挨拶された。

Ngoc 氏は、九州大学への留学経験もあり、日本へ関心も高く、ダラット大学とアイユーゴーが連携してラムドン省内の社会福祉に携わっていること、また日越の学生が相互に社会課題を発表し議論するジョイント・セミナーの開催を高く評価された。

## ③ ダラット大学および社会福祉学部教員と日本からの参加者による懇談

アイユーゴー海外役員でもある Minh Hien Nguyen ダラット大学社会福祉学部教授からダラット大学および社会福祉学部の概要について説明があった。

特筆すべきは、海外の大学・機関等の連携により教育、研究を発展させていきたいという方針が明確にされていることで、パートナーである諸外国の大学・機関の一覧も示された。アイユーゴーはこの一つであり、社会福祉学部としては、アイユーゴーとの連携が不可欠であると強調された。

社会福祉学部が考える、アイユーゴーとの具体的な連携は以下のとおりである。現在十分にできていない事柄についても、今後連携を強めていきたい旨の提案があった。

- ◆ プロジェクトの実施
- ◆ 教員および学生の交流
- ◆ 国際ジャーナルへの論文投稿
- ◆ 教員の能力向上を目的とした研修コースの実施
- ◆ ダラット大学カウンセリングオフィスのコンサルタントとしての活動
- ◆ ジョイント・セミナーの企画、運営

また、アイユーゴーの海外役員でもある Tran Le Quan 教授が学長を務めるベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学も含めた三者による連携で、上記の事業を進めていきたい旨の言及があった。

昨年につき 2 年連続して、ダラット大学でのジョイント・セミナーを実施したが、アイユーゴーとの連携強化への意欲は昨年以上であり、日本からの参加者は大変嬉しく思うと同時にその期待の高さに引き締まる思いをした。

#### ④ ダラット大学生らによるキャンパスツアーと昼食懇談

ダラット大学は、ダラット大学の教員によれば、ベトナムで最も美しいキャンパスと言われているとのことだったが、その言葉に疑いを持つ余地がないほど、美しいキャンパスであった。このキャンパスを教員に加えて、学生に案内していただいた。日本から参加した学生にとっては、ダラット大学の学生との初めての交流の機会であり、美しいキャンパスを散策しながら、徐々に打ち解けていく姿が見られた。

#### ⑤ ダラット大教員・学生および日本からの参加者によるプレゼンテーション

今回のセミナーの最も重要なプログラムである。半日の時間をかけて、日本側から 5 件 (役員 2 名、学生 3 名)、ベトナム側から 4 件 (教員 1 名、学生 2 グループ (8 名)、特別参加した高校生 1 名) のプレゼンテーションを行った。

日本からの参加者は、「アイユーゴーのビジョン」「日本の人口減少の現状と今後の対応」、「日本の高齢者への期待と役割」、「日本旅行をするうえで重要なこと」、「今後のキャリアプラン」、またベトナムからの参加者は「ベトナムの若年層の結婚の傾向」、「ソーシャルワーカーの就職に与える影響」「親を亡くした子どもたちへの心理社会的支援」など、双方、多様なテーマに触れた。それぞれの報告時間は、10~15 分、コメントも 5 分程度と短いものではあったが、最後に全体を通じたディスカッションの時間を十分に持つことができた。日本の学生、ベトナムの学生とも緊張しながらも、熱心に発表し、また議論に参加した。

#### ⑥ ダラット大学教員および学生による夕食会

緊張と充実のプレゼンテーションとディスカッションのあと、美味しいベトナムの家庭料理とビール (未成年はジュース) を味わいながら、ディスカッションの続きや、それぞれの若かりし頃の話、また相互に歌を歌うなど楽しい時間を過ごすことができた。ベトナムの学生からは、大学での生活が充実していることや、卒業後、ソーシャルワーカーとして頑張っていきたいという思いを聞くことができた。ダラット大学の教員も日本からの参加者もその言葉に耳を傾けて、エールを送る場面もあった。

#### ⑦ SOS 子どもの村(SOS Children's Village Dalat)訪問

ダラット最後のプログラムとして、社会福祉学部が教育、研究の両面から関わる SOS ビレッジを訪問した。ベトナムのみならず各国で活動を展開する国際 NGO のベトナム拠点の一つである。この拠点の代表によればベトナム戦争期に親を亡くした子どもの保護や支援から始まり、その後も何らかの理由で保護が必要な子どもたちに、家庭のような温もりを感じながら暮らせる施設を提供しているという。現在は 106 名が施設内で暮らし、また施設外で暮らす子ども、またその子どもを面倒みる親や親戚を支援する取り組みもしている。施設内には学校も備わり、子どもたちは 10 名程度に分かれて一つの建物に暮らし、そこには母親の役を担う大人の女性が共同生活をしていた。18 歳になると大学や専門学校に進むため、施設を出るようだが、長期休暇になれば戻ってくる子どもも多いようで、家庭の温もりを感じながら大切に育てられていることが伝わってきた。

なお、国際 NGO である SOS Children's Village は、今後、より深刻な国への支援を強化するため、ベトナム拠点への予算的な支援は減じられていく見込みであり、ベトナム政府やベトナムの民間、個人からの寄付を増やしていく必要があるとの方針についても、共有いただいた。

## 2. ジョイント・セミナーの意義

上記 1 のとおり、現地での主な活動は 3 日と短期間ながらも、ダラット大学の教員、学生と有意義な時間を過ごすことができた。改めてアイユーゴーが実施するジョイント・セミナーの意義を考えてみたい。

まず、国際協力 NGO において、ジョイント・セミナーを活動の重要な柱の一つと位置づけ、頻繁に実施してきた団体は多くはない。日本に拠点があり、国際協力の分野で活動する NGO は、アイユーゴーの他にも数多くあるが、NGO の情報を集め、広く紹介している JANIC によれば、資金助成、緊急支援、日本国内

向けの情報提供や地球市民教育、政府等への政策提言、フェアトレードを主な活動形態としている NGO が多いという。多くの NGO と現地との関係が、与える側と与えられる側だとすれば、アイユーゴーのジョイント・セミナー、特にダラット大学の教員や学生との関係においては、相互に課題を共有し、相互に提案をするという意味で、双方が与え、与えられる両方の立場にあると言える。対等な関係で共同の企画を実施するアイユーゴーのジョイント・セミナーは特徴ある取り組みといえる。

また、国際協力 NGO のなかには同様に日本の会員や関心を持つ人々を対象に「スタディツアー」を実施している団体も複数ある。しかし、これらの多くは、被援助国・地域を実際に見せたり、共同作業をしたり、現地住民との交流をしたりすることで、事業の必然性、重要性の理解を得る目的で行われていることが多い。この点においても、アイユーゴーのジョイント・セミナーはこれらの目的は一部であって、より重要なのはそれぞれの課題をお互いに学んで、お互いに生かすというものであり、似て非なるものと言えよう。

最後に、ジョイント・セミナーが一過性の企画で終わっていないことも、特筆すべき点である。日本側参加者、ベトナム側参加者が、それぞれジョイント・セミナーの内容と意義を振り返り、会員、関係者などに共有を図っている。国を超えた市民、学生による課題の共有や相互の指摘は、セミナー終了後の活動につながっている。

アイユーゴーはジョイント・セミナーを活動の大きな柱と位置づけ、重視してきた。今回の、日本、ベトナム双方の参加者の感想を見聞きしても、このセミナーの意義を確認することができる。このような企画は今後も続けていくべきであると考えられる。

### 3. 今後の課題

継続して実施していくにはいくつかの課題がある。

#### (1) 参加者によるプレゼンテーションについて緩やかな統一テーマの設定

相互の提案について、緩やかでも一定の統一したテーマがあったほうが、ディスカッションがより実りあるものになり、終了後、各国の参加者が独自にあるいは連携して実施するアクションプランに結び付きやすくなると思われる。

#### (2) 事前研修の充実

初めて、参加、訪問する学生にとっては、訪問先の状況や参加者の関係性が十分に理解しきれない部分がある。コロナ禍を経て、オンラインによるミーティングのハードルが大きく下がったこともあり、双方の参加者が参加した顔合わせをしておくことにより、相手への関心が高まることが期待できる。旅程を確認すること、日本側参加者の自己紹介でとどまっている事前研修について、海外からの参加者との顔合わせ、関心の共有を行うことにより、対面で実施する現地での研修がより充実したものになると思われる。

#### (3) 実施経費の確保

日本からの参加者は概ね自己負担により実施した。しかし、アイユーゴー海外役員の拠点であるタイ、マダガスカルなどから、自己負担でベトナムへ渡航することは負担が大きい。すべての参加者が一定の自己負担をしつつも、複数の国の参加者が集まるためには、団体外部から実施経費を助成いただけるよう、模索していく必要がある。助成を頂くからには、より高い成果を出し、ジョイント・セミナーが社会に貢献していく必要があることは言うまでもない。

最後に、ジョイント・セミナーの実施にあたり、日本およびベトナムで支援をいただいた多くの関係者に感謝を申し上げたい。

以上

振込先： 特定非営利活動法人アイユーゴー 理事長 新田幸夫

・三井住友銀行 阿倍野支店：7, 479,470 ・ゆうちょ銀行：00930-9-144252

発行者：新田幸夫 印刷：(株)フジカク